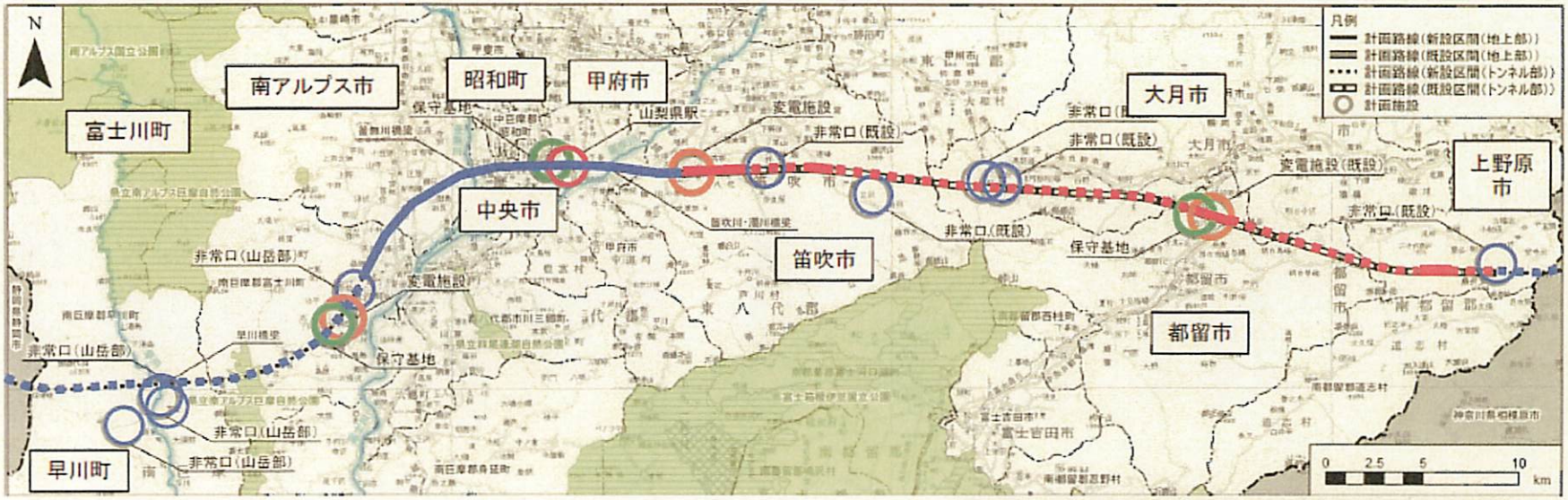
山梨県内におけるリニア関連事業の概要

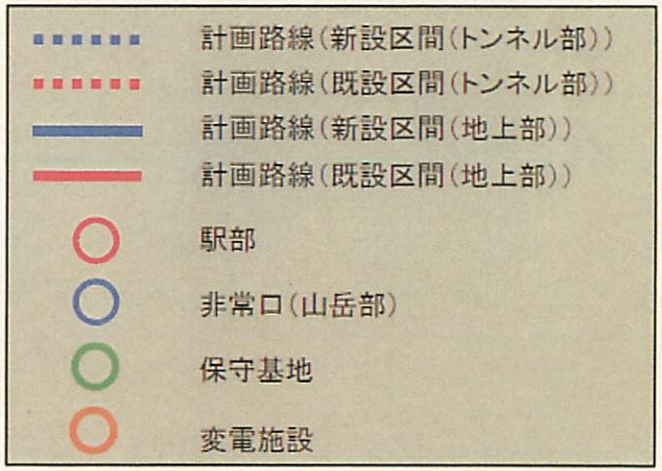
平成 28 年 12 月

山　梨　県

リニア中央新幹線のルート（山梨県内）



種別	数量
地上部	27．1km
トンネル	56．3km
駅	1箇所
変電施設	3箇所
保守基地	3箇所
非常口（山岳部）	9箇所



- 県内延長 83.4km（うち地上部 27.1km、.トンネル部分 56.3km）

沿線地域の活性化に向けた取り組み

課題等

○　将来の沿線土地の有効活用や生活環境への影響の軽減のため、いくつかの地域の住民からリニア本線に沿った側道の整備が求められている。

○　リニア中央新幹線事業に伴って、学校や体育館、公園など公共施設の移転が必要になっている。

沿線市町等の取り組み状況

【側道整備】

ＪＲ東海は、両側約 4m の緩衝帯を利用した市町による側道整備を可能としており、既に整備方針を示している自治体や、多額の整備費用も要することから検討中の自治体もある。

【公共施設の拡充】

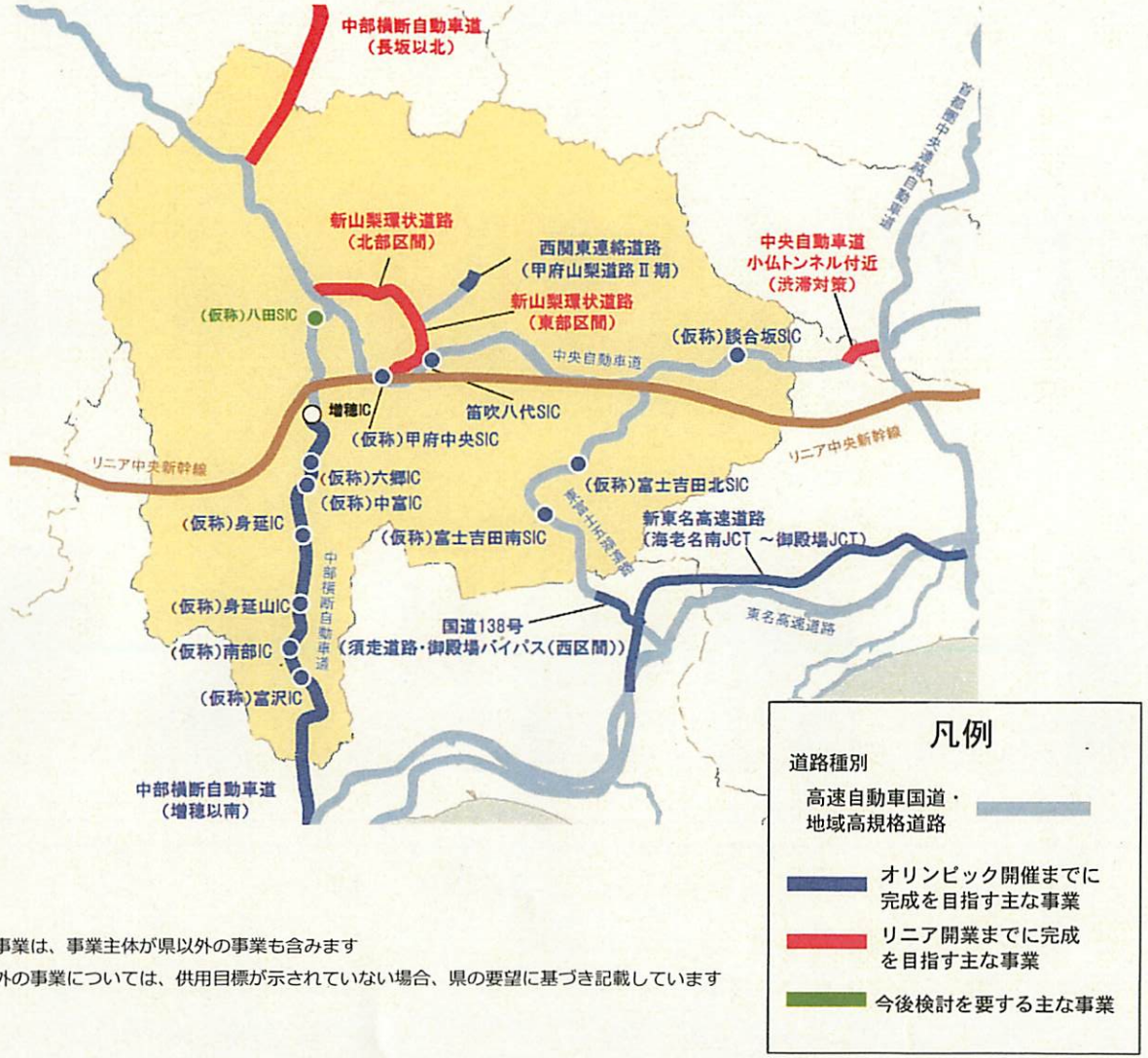
沿線市町では、現在、ＪＲ東海と移転先や移転スケジュール等について協議を進めているところであり、移転にあたっては、従前の機能の更なる拡充も検討している。

【県による支援】

県では、リニア建設に起因する影響を緩和し、地域住民の利便性向上や地域の活性化につながるリニア沿線市町の取り組みに対して支援を検討している。

リニア中央新幹線と県内交通

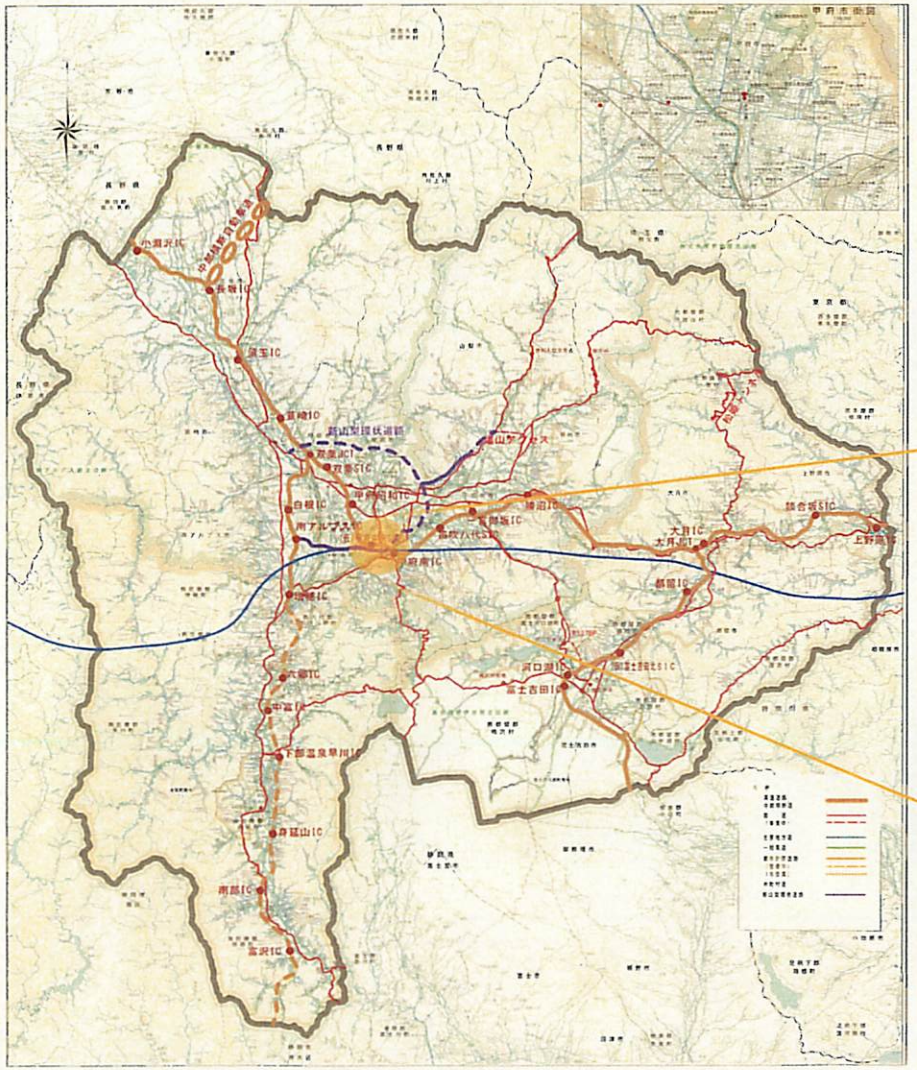
山梨県社会資本整備重点計画資料より



（注１） 図示事業は、事業主体が県以外の事業も含みます

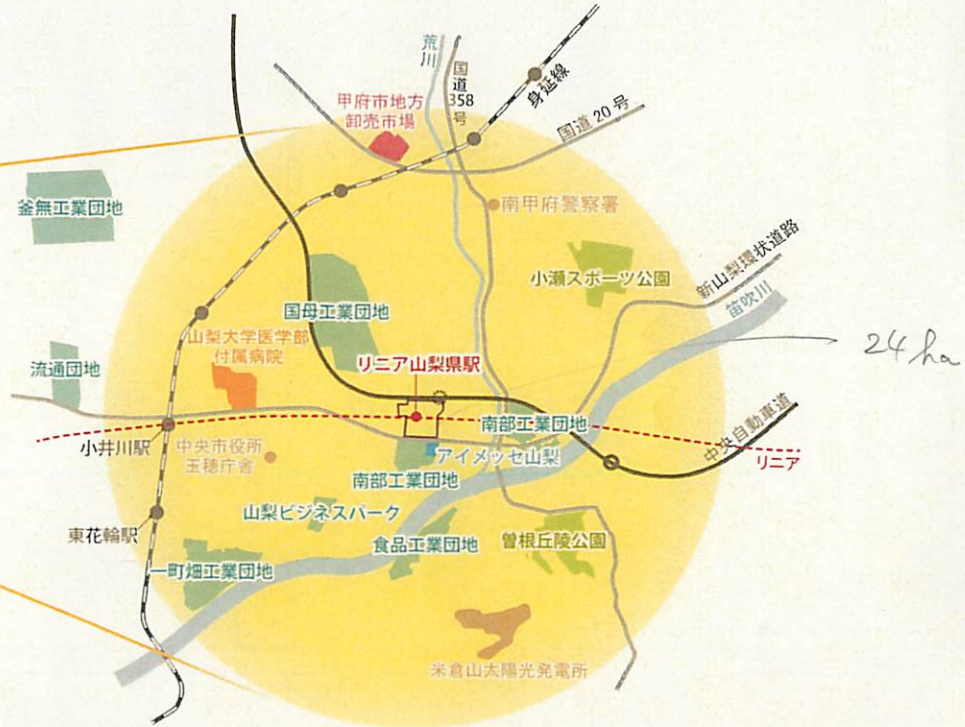
（注２） 県以外の事業については、供用目標が示されていない場合、県の要望に基づき記載しています

山梨県管内図



リニア環境未来都市

- リニアの開業効果が最初に発現する場所として、山梨らしさを最大限に生かしながら、環境との共生や新たなライフスタイルの展開を目指し、先導的な取り組みを実践
- 産業に活力をもたらし、住む人に潤いと訪れる人に山梨らしさを提供することができる緑豊かで美しいリニア環境未来都市を創造



- 対象エリア：リニア駅から 4km 程度
- 新たな玄関口として中核となる駅周辺とリニア通勤者などの生活や新たな産業の集積の場となる駅近郊から構成

リニアを活用した山梨発展の基本戦略

リニア開業による大都市圏等との飛躍的なアクセス向上と県内各地を結ぶ交通ネットワークの整備、本県の強みを生かした山梨の発展

リニア中央新幹線の開業

大都市圏や国際空港との時間距離の短縮

リニア環境未来都市の創造

■全国初の高速道路と新幹線が直結する立地環境を生かし本県の発展に向けた先導的な取り組みを展開

○取り組み方針

・国内外の人々との活発な交流や活動の拡大につながるリニアの開業効果を県内全域に波及

・豊かな自然・景観など山梨らしさを最大限生かした本県の魅力を発信

・本県の持つ強みを積極的に活用し、先導的な取り組みを展開

○本県の強み

- 優れた交通アクセスと立地環境
- 四季の豊かな自然環境と清冽な水
- クリーンエネルギー先進県
- 多彩な観光資源
- 高度な技術を有するものづくり産業と全国トップレベルの企業立地支援制度
- 特色のある農産物や地場産業
- 安心で潤いのある生活環境
- 安全・安心な社会・県土

＋

交通ネットワークの整備

■リニア開業効果を県内全域へ波及

○主要幹線道路等の整備によりリニア駅３０分圏域の拡大

○リニア駅と甲府駅を結ぶ必要な道路の整備と速達性・定時性・利便性等を備えた交通システムの構築

○県内バス交通ネットワークの再編・整備

山梨の発展

本県の将来展望

■定住の促進と新たなライフスタイルの展開

豊かな自然環境の中で、子育てや教育、医療環境などの充実により、安全で快適な暮らしが実現しています。

○大都市圏へのリニア通勤などにより定住が拡大

○週末や長期休暇を山梨で生活する二地域居住を楽しむ人々が増加し、多様な働き方が進展

■新たな産業や機能の集積

優れた交通アクセスや魅力ある立地環境の整備により、本県の基幹産業の発展と裾野の拡大が進んでいます。

○企業本社が移転・進出するとともに、産業団地などに先端技術関連産業が集積し、様々な業種の企業が立地

■地域資源を生かした多様な観光の進展

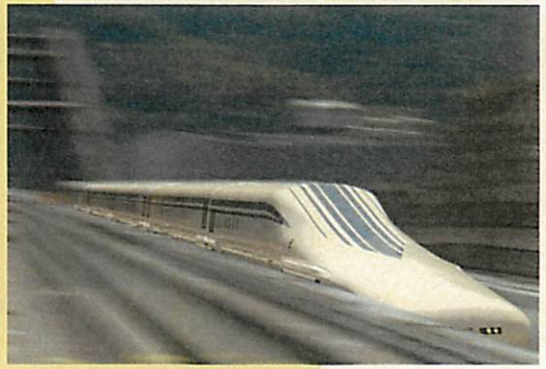
県内各地の観光資源の魅力向上と連携強化により、本県ならではの観光が展開されています。

○国内外からの観光客が増加し、地域資源を生かした多様なツーリズムや県内各地を巡る滞在型観光が拡大

リニア環境未来都市の創造に向けた取り組み ①

駅周辺

本県の新たな玄関口にふさわしい空間になるよう、エリアを区分して施設を整備



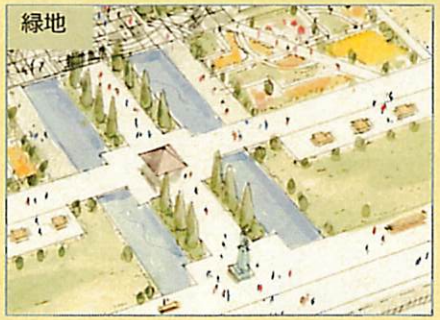
観光交流・産業振興エリア

国内外の観光客の他、広く県民にも魅力的な施設を整備し、周辺には緑地を配置

未来のものづくりをリードする戦略拠点を駅近郊に形成するため、産業の集積の呼び水となる施設や情報発信のための施設を整備

«敷地面積» 約105,000㎡

観光交流施設



産業振興施設

イベント広場

交通エリア

リニア中央新幹線を活用し、大都市圏や国際空港と県内各地を短時間でアクセスできる拠点を整備

«面積» 約140,000㎡

スマートインターチェンジ

パーク＆ライド用駐車場

リニア駅の周辺整備
各施設イメージ

リニア環境未来都市の創造に向けた取り組み ②

観光交流施設の機能

ショップイメージ

サービス提供機能1

本県の魅力を実際に理解し体感してもらうため、山梨の名物・特産品を購入したり味わったりすることができる機会を提供

«構成要素» ショップ
レストラン・カフェ

サービス提供機能2

来場者の利便性や快適性向上のため、心のこもったおもてなしを行い、観光、宿泊、交通、イベントチケットなどに係るサービスをワンストップで提供し、来場者を丁寧にサポート

«構成要素» 各種予約コーナー

交流機能

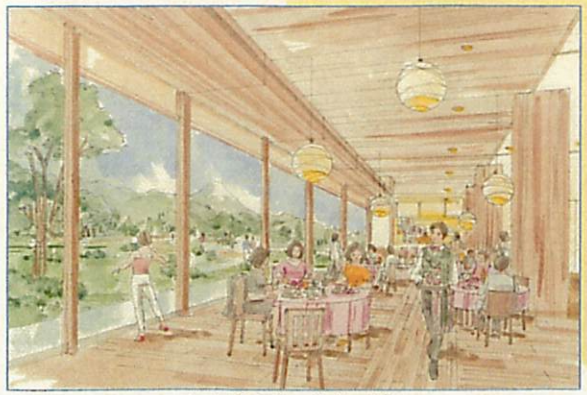
多くの人が集まるイベントなどを通じて、来場者に山梨の魅力を理解してもらえる機会を提供

«構成要素» イベントホール
貸会議室

情報発信機能

本県の魅力の発信や来県者の満足度向上のため、ＩＣＴなどを活用し、多言語による正確でわかりやすい情報の提供

«構成要素» 総合案内コーナー
ギャラリー
展望デッキ


レストランイメージ

イベントホールイメージ

総合案内・各種予約コーナーイメージ

リニア環境未来都市の創造に向けた取り組み ③

駅近郊１（リニア駅から4km程度の範囲）

次の５つの視点から目指すべき姿を明確にし、実現に向けた取り組みを展開

区画が広い戸建て住宅イメージ

産業

未来のものづくりをリードする戦略拠点の形成を目指す

«取り組み方針»

○産業集積の戦略的推進
○山梨の産業をけん引する人材の育成・確保
○企業の競争力の強化

«主な取り組み»

○健康寿命延伸や燃料電池などに関連する産業の集積と育成
○関係市町と連携して、環境にやさしい産業団地の整備検討
○やまなしパワーにより電力を企業等に安価に供給
○新商品・サービスの開発や新市場開拓などへの支援

定住

新たなライフスタイルの展開を目指す

«取り組み方針»

○安全で快適な暮らしやすいまちづくり
○移住者の受入環境の整備
○魅力的なライフスタイルの提案
○全国トップクラスの子育て支援
○山梨の未来を拓く人材の育成

«主な取り組み»

○リニア駅と身延線駅とのアクセス強化
○「やまなし暮らし」の魅力発信
○第２子以降の３歳未満児の保育料の無料化
○子育て協働社会の構築と子育て支援隊の結成
○本県独自の少人数学級の推進

環境にやさしい産業団地イメージ

リニア環境未来都市の創造に向けた取り組み ④

駅近郊２

県産材を使用した統一感あるまちなみイメージ

景観

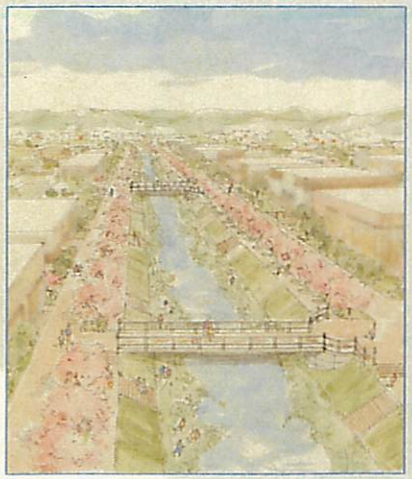
魅力的なまちなみ景観の展開を目指す

«取り組み方針»

○基盤整備とともに地域住民との協働による美しく魅力のある景観形成

«主な取り組み»

○景観計画に基づく規制や屋外広告物の是正指導等による魅力ある景観の形成
○統一感のある魅力的な景観の形成の検討
○県産材活用による建物の木造化または内装等の木質化の促進



統一感のある魅力的な景観形成のイメージ ⇒

観光

様々な交流の展開を目指す

«取り組み方針»

○選ばれる観光地づくりの推進　○戦略的な山梨の魅力発信
○国際観光の推進　○山梨の魅力を生かした先導的ツアーの推進

«主な取り組み»

○ホテルや商業施設などの機能を誘発
○リニア駅を起点、終点とする周遊型・滞在型観光ルートの開発推進
○案内表示・パンフレットの多言語化

エネルギー

災害に強く環境に優しいエネルギー自立度の高い社会を目指す

«取り組み方針»

○自立・分散型エネルギーシステムの導入　○水素社会の実現に向けた取り組みの推進
○スマートな省エネルギーの推進

«主な取り組み»

○「やまなしエネルギービジョン」に基づく総合的な施策の推進
○燃料電池自動車の普及と水素ステーションの整備の促進
○太陽光発電、エネファーム、蓄電池等を備えたスマートハウス等の普及促進

周遊観光イメージ ⇒

リニア中央新幹線建設促進山梨県期成同盟会　決議

【平成28年5月16日】

リニア中央新幹線建設促進山梨県期成同盟会の事業目的の趣旨に則り、リニア中央新幹線の早期実現に向け、とりわけ次の事項について一致協力して強力な運動を展開するものとする。

1　リニア中央新幹線の東京・名古屋間について、工事実施計画に基づき着実に事業を進め、早期整備を図ること。

2　事業の実施に当たっては、県内企業の受注機会の拡大に配慮するなど、地域の活性化に資するよう努めること。

3　リニア中央新幹線の開業に向け、山梨県駅（仮称）の周辺整備を見据えたスマートICやアクセス道路の整備などに対し、交付金等を優先的、重点的に配分すること。（リニア事業を対象とした新たな制度の創設など）

4　山梨リニア実験線における実用化確認試験を着実に実施するとともに、超電導リニアの体験乗車の開催に当たっては、リニア中央新幹線の早期開業に向けた機運醸成に向け、引き続き多くの希望者が乗車できるよう配慮すること。